か.

旧友であった故小林禎作博士の優れた研究に僅かなりと，知見を加えることも，今後の科学史研究に何らかの一方法を提供することになるかも知れないと思い，以上のような心理学的・科学的アプローチをした次第である.

6. 結　語

今回の研究をまとめると次のようになる.

(1) 土井利位「雪華図説」の雪の結晶のスケッチ図と家紋の関係を，心理学でいう図と地の関係に類似させて調べた.

(2) 当時の顕微鏡の確度を考えながら，スケッチ図と現代の顕微鏡写真とを対比させて，結晶の種類毎に分類させてみたところ，相当多くのスケッチ図が現代の分類に対応させることができた.

(3) スケッチ図と家紋との関係を心理学的にも調べるため，3人の独立したテスト者の5段階制の判断により，影響度を調査し，その結果を主成分分析にかけて，主要な因子を抽出した.

(4) その結果，樹枝系のスケッチについては，薺（かぶら），六角，麻の葉，丁子車，日足などが，総合的にみて，スケッチ図に強く影響していると思われた.

(5) 他の種類のスケッチ図についても，家紋の影響を調べると，かなり強い関係のあることがわかった．家紋以外の影響については今回は考えなかった.

(6) 最後に，科学性と先入感性とを対応させて，主成分分析を行い，その割合を調べた.

終りにこの論文を記すに当っては，その心理学的面について貴重なアドバイスを東大心理学教室の八木保樹氏から，論文全体の構成と内容については有意義なコメントを気象大学校の田中豊顕教頭から頂いた.

またテストについては，大島和美，大石真二，平林潤子各氏，計算などについては日本気象協会森本陸世室長，都立老人医療センター山田英夫部長，東大海洋研石川浩治氏に多大のお世話になった．ここに厚くお礼申し上げたい.

参考文献

藤永　保，1984：現代心理学，筑摩書房.
樋口清之監修，1971：家紋大図鑑，秋田書店.
伊藤幸作，1965：紋　章，美術出版社.
小林禎作，1968：雪華図説考，筑地書館.
小林禎作，1977：雪（北海道の自然4），北海道新聞社.
荻野三七彦監修，1971：日本の家紋，新人物往来社.
高橋賢一，1974：大名家の家紋，秋田書店.
田中豊他編，1986：パソコン統計解析ハンドブック（Ⅱ多変量解析編），共立出版.
渡辺慧，1998：認識とパタン，岩波新書.

日本気象学会への寄付者御芳名

平成元年5月31日現在下記の方から寄付がありましたのでお礼を兼ねて報告いたします.

記

「山本・正野論文賞」基金	正　野　久　野（故正野重方夫人）	3,000,000 円
国際学術交流	村　木　彦　磨	
国際学術交流	大　竹　義　信	
	合　計	3,014,500 円